

応用倫理学

Applied Ethics

2 単位

大 学 名	神戸市立工業高等専門学校	担 当 教 員 氏 名	山本 舜 講師
開 講 期 間	後期	開 講 曜 日 ・ 時 間	未定
履 修 条 件		募 集 人 員	5 名程度
教 室	未定	連 絡 先	Tel:078-795-3322 Email: office-gk@kobe-kosen.ac.jp (学生課教務ライン)
授 業 形 態	対面		
授 業 方 法	講義		
学 習 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい科学技術の社会的応用には倫理的問題の解決が不可避であることを理解する。 ・科学技術の諸問題を技術者の倫理的責任の問題として理解し、それについての自分の意見を矛盾なく展開できる。 		
授 業 概 要	本講義では、現代のさまざまな問題を生命倫理、環境倫理、技術者倫理、情報倫理といった応用倫理学の諸分野を通じて検討する。その際、応用の観点に十分寄与するような主体形成も同時に視野に収める。		
授業時間学習以外の学習（準備学習含む）	本科目の修得には、30 時間の授業の受講と 60 時間の事前・事後自己学習が必要である、授業内容を事後的に復習して関心ある個別問題を調査し、発表前の事前学習として発表準備に時間を割くこと。		
授 業 計 画	1	ガイダンス：応用倫理学とは何か？	
	2	人間と現代社会の諸問題（1）	
	3	人間と現代社会の諸問題（2）	
	4	生命と倫理（1）	
	5	生命と倫理（2）	
	6	情報・技術と倫理（1）	
	7	情報・技術と倫理（2）	
	8	前半の総括	
	9	環境と倫理（1）	
	10	環境と倫理（2）	
	11	発表準備	
	12	発表・検討会（1）	
	13	発表・検討会（2）	
	14	発表・検討会（3）	
	15	まとめ	
評 価 方 法	成績は、レポート 30% 授業内課題 30% 発表 40% として評価する。応用倫理学は現実の様々な問題に対応するための分野であるため、ペーパーテストではなく、個々の見解を総合的に判定でき「発表」に評価の比重を置くこととする。また、100 点満点で 60 点以上を合格とする。		
教 科 書	授業プリントを使用する。		
参 考 図 書	『教養としての応用倫理学』：浅見昇吾・盛永審一郎 編著（丸善出版） 『現代を読み解く倫理学 応用倫理学のすすめ II』：加藤尚武 著（丸善ライブラリー） 『3STEP シリーズ 5 倫理学』：神崎宣次・佐藤静・寺本剛 編著（昭和堂）		
特 記 事 項	適宜、個人でのワークやグループでの意見交換を実施するほか、授業の後半では応用倫理学の諸問題に関するグループ単位での発表を課す（受講者の人数によっては単独での発表もありうる）。また、受講者の内容理解や進捗に応じて、スケジュールや内容を多少変更する可能性がある。		